「地域の未来予測」について

「地域の未来予測」とは

★従来の一般的な計画等では十分着目されてこなかった地域の課題に気付きを与えるもの

それぞれの地域が、「目指す未来像」の議論の材料となる重要な将来推計のデータを、客観的かつ長期的な視点で整理したもので、以下の要件を満たしたもの

① それぞれの地域における行政需要や経営資源に関する**長期的**な（概ね15年から30年先までの）**変化・課題の見通し**を、**客観的なデータを基にして整理**したものであること。
② 分野横断的な指標として、各分野の推計の前提となる**人口や人口構造の変化**及び**施設・インフラの老朽化等に関して長期的な将来推計**を行ったものであること。
③ ②を踏まえて**複数の分野**についての**長期的な変化・課題の見通しを整理**したものであること。

ポイント

「地域の未来予測」を作成すること自体が目的ではなく、当該**「地域の未来予測」を踏まえて住民等も巻き込みながら「目指す未来像」を議論**し、**その結果を様々な政策や計画に反映していくことが重要**。

「地域の未来予測」については直感的に分かりやすくするための工夫が必要（例えば、グラフやGISの活用等）

【作成単位】

- 市町村、あるいは推計データの入手が可能であれば市町村における一部の地域を単位として整理することも考えられるが、**複数の市町村で共同で作成することも有効**

【分野】

- 人口や人口構造の変化及び施設・インフラの老朽化等の影響を大きく受ける分野のうち、人口等を基礎として長期見通しの推計が可能な分野であって、施設・インフラをはじめとしたサービス提供体制の見通しに長期的な視点での検討が必要な分野
- 具体的には、例えば、**ⅰ子育て・教育、ⅱ医療・介護、ⅲ公共交通、ⅳ衛生、ⅴ防災・消防、ⅵ空間管理**等が考えられる。

（作成単位の具体的なイメージ）

◎複数の市町村
　例：生活圏を同じくする複数の市町村
　　広域連携を検討している複数の市町村
◎連携中枢都市圏、定住自立圏
〇各市町村
〇各市町村における一部の地域
　例：指定都市における行政区
　　支所の管轄区域、中学校区等

※「地域の未来予測」の作成単位や期間、分野や指標については各地域の実情に応じて要検討

「目指す未来像」の議論について

「目指す未来像」の議論とは

★地域に関わる様々な主体で「目指す未来像」を共有

「地域の未来予測」によって明らかになった変化・課題の見通しを踏まえつつ、**客観的な推計が困難な分野や指標についての見通しや目標も併せて**、**どのような未来を実現したいのか**について、住民等とともに議論すること。

ポイント

「目指す未来像」の議論は必ずしも「地域の未来予測」によって明らかになった変化・課題の見通しのみを対象として行われるものではなく、より幅広く、自由に行われるべきもの。

☞長期にわたる客観的な推計が困難な行政分野（例：産業、観光、環境等）も含めて幅広に議論
AI・IoT等の新技術の活用等も視野に入れて、地域の強みを活かしながらどのような未来像を描けるか自由に議論

「目指す未来像」の議論のあり方

- ✓ 「目指す未来像」の議論については、**地域に関わる様々な主体（首長、議会、住民に加えて、コミュニティ組織、NPO、企業等）を巻き込んで**行うことが重要。
- ✓ 特に**未来を担う若い世代を巻き込んで**議論を行うことが重要。例えば、中学生や高校生を対象に行う、自治体の初任者研修の場を活用するといったことも考えられるのではないか。
- ✓ ワークショップの開催や地域に関わる様々な主体が参画している協議会等のプラットフォームの活用、議会への説明等により行うことも考えられる。例えば、ワークショップにゲーム性を持たせるなど**参加者の関心・意欲を高める工夫も有効**。

「目指す未来像」の議論の結果を
複数市町村の広域連携の取組や各市町村における様々な政策や計画に反映